

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4070703451		
法人名	株式会社 エルゼ		
事業所名	愛好の里グループホーム青春・明苑		
所在地	北九州市八幡西区馬場山東1-26-20		
自己評価作成日	平成24年11月9日	評価結果確定日	平成24年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年11月21日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リビングは大きな窓が多く外の風景、ベランダ下の池には水鳥が泳ぎ季節を体感できる恵まれた環境のホームです。</li> <li>・重度化した入居者、自立の方が入居しており、自立の方が重度化した方のお世話を職員と一緒にさせていただき、良い形で助け合いながら共存できていると思います。</li> <li>・現在最高齢101歳です。職員はいつでも愛情をもって接する事を心がけています。全員が明るく楽しい笑顔あふれる温かいホームです。</li> <li>・終末期を過ごされる方には精神的苦痛を出来るだけ緩和し、またご家族の身体的、精神的負担の軽減に配慮しながら数名の方を見送ってきました。</li> <li>・出来るだけ口から栄養摂取して頂く事を基本とし、個人の状態に合わせ常食・刻み食・ミキサー食と食事形態に工夫しています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>開所7年が経過し、入居者が重度化しつつあるが、入居者・職員が一同に会してゆったりと時間をかける食事が継続し、職員ばかりでなく入居者も、相互の状況を理解する機会になっている。昨今、2名の入居者が、家族も毎日訪問される中、かかりつけ医と十分な連携もあり、静かに苦しみもなく亡くなられた。管理者は家族の篤い感謝の念に触れ、感動を新たに今後も看取りに関わる予定である。また、地域の一員として案内を受けた町内会行事への参加を継続し、恒例のバーベキュー大会は多数の家族が参加し、良い運営だったと感想があった。そして、運営推進会議で難聴傾向のある入居者に職員が大声で対応することもあり、近隣に及ぼす影響を相談したところ、町内会長から理解や協力を得ている。今後も理念の「共に笑える毎日を過ごします」の具現化が期待されるホームである。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **愛好の里グループホーム青春・明苑**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛情をもって 明るく楽しく 共に笑える毎日を過ごします」の理念をリビングに掲示し、朝の勤務交代やミーティング時に理念に基づいたケア、サービス提供は出来たか振り返るよう心がけている。	開設7年目を迎え、理念の実践に努めている。日々のケアを振り返りながら、共に笑える機会や場面づくりにこころがけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には招待状を届けて頂き、行事には入居者、職員と共に参加し交流を深めている。地域内の住民の方も散歩の途中にホームに立ち寄りリビングでコーヒーを飲みながら職員・入居者の談話を楽しんでいる。	住宅地の景勝地に位置し、町内会行事案内や参加の継続で、地域の一員として認められている。ボランティアのオカリナ奏者の来訪もあり、心地よい時間を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を開催、町内会長・民生委員の方に出席して頂いた際に、ホームでの生活の様子を見学して頂いたり、状況の説明を行い理解して頂ける様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を行い、包括支援センター、民生委員や入居者ご家族の貴重な意見を聞く事が出来、サービスの向上につながっている。	民生委員でもある町内会長や包括支援センター職員、家族の参加で居間で開催し、会議録を整備している。入居者が参加することもあるが、中座したりしている。会議では、難聴傾向のある入居者に職員が大声で対応することもあり、近隣に及ぼす影響を相談している。町内会長から、理解や協力を得ている。	運営推進会議録を開示することで、会議に参加できない家族にも、取組みや運営面での検討等、情報の共有を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターの方には、運営推進会議に出席していただき、意見交換を行っている。また、ホームでの悩み、困難事例等相談を行い、質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターから、入居状況の報告の協力依頼を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のミーティングで課題にあげ、ケース検討を行い、拘束しない様にスタッフ間で工夫しケアを行っている。	以前町内会で外出傾向のある入居者の顔写真の回覧をお願いした経緯もあり、現在は外出傾向のある入居者はいないが、理解や協力をお願いできる。難聴傾向のある入居者の対応で職員が大声になることもあり、ミーティングや運営推進会議で話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで実態のチェックを行っている。スタッフ間のお互いの目で確認し合い注意が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて学ぶ機会を持っている。現在、この制度を利用されている方もあり、社協の出入りがある。その際にご家族の方も来苑され制度について学んで行かれることもある。	日常生活自立支援事業活用者があり、市社会福祉協議会の支援員が毎月来訪している。金銭管理報告を職員が交代で行っているため、事業内容を周知している。成年後見制度のパンフレットを整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族を含め十分な説明を行い、理解を頂いたうえで契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から要望や意見を言って頂ける関係作りが出来ている。運営推進会議の中でも意見交換ができ、運営に反映できている。	入居利用料等の支払いに訪問する家族に管理者が運営推進会議への参加を勧めたり、ホームでの生活状況を報告し、家族からも意見を伺う機会としている。運営推進会議に参加した家族から、「先日のバーベキュー大会の運営は良かった」と意見があった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング他常に職員の意見を聞き、管理者は代表者と意見交換できる様に努めている。また、管理者は日ごろより職員とのコミュニケーションを取るよう心がけ職員の意見の把握に努めている。	管理者は運営法人にホームの労働環境について理解を求め、職員の時給が上っている。毎月のミーティングでは率直な意見交換があり、入居者の使用するオムツの種類等を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者様が全体的に重度化された為、給与の改善は少し見られたがまだまだ条件の整備は十分ではない。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	苑では性別・経験・年齢等は制限せず採用している。また未経験者であっても不安無く働けるよう研修から行っている。個人の希望休日の調整や急な勤務交代についても柔軟に対応している。	資格ではなく、本人の意欲を重視して採用している。職員の紹介で、つい先頃職員を採用し、管理者が中心になって日々指導を行っている。年間計画で毎月学習日を設定し、随時内容を検討している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回のミーティングで話し合っている。	介護相談に関するポスターを掲示し、入居者の人権について、毎月のミーティングで話し合いをしている。大きな声での対応が虐待と誤解を生むことを理解している。	介護従事者の人権学習は必須であることから、行政主催等の人権学習の参加や伝達講習会をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度のミーティングは全員参加し、社内研修を行っている。終末期の対応時には看護師による研修を行った。知識や技術の向上を随時図っている。未経験者には管理者自ら現場に出て、指導を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームとの情報交換を通じてサービス向上へと繋げている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には、必ずご本人及び家族と面談し、不安や要望等を伺い、安心を確保できるよう相談等に応じている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時には、必ず本人及び家族と面談し、些細な事であっても気になっている点はお話して頂くようにしている。また、少しでも不安が解消され、より良い苑での生活が出来るようスタッフが対応させて頂く旨をお伝えしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズに合わせ、他のサービスが適切と思われる場合には、必要としている支援を見極め、御本人や家族の意向を確認した上で紹介する等の対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との対話を通して具体的な生活歴・個人史等を理解・尊重し、人生の先輩として礼節を持って対応する事はもちろん、暮らしを共にする者同士として支えあう関係を築くよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人を支える上で必要な状況等を随時ご家族に御報告・御相談し、御意見を伺い、共に関わって頂きながらの支援を行っている。御本人とご家族の絆を大切に、双方が会話しながら方向性を決定していただくこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部の方の面会や外出、外泊にも制限を設けず、ご本人の大切な関係を継続できるよう配慮している。また、毎年1回のバーベキュー大会を実施し、ご家族やお孫さんにも出席して頂き絆が切れないように支援を行っている。	今年のバーベキュー大会にもご家族の参加が多く、家族と入居者の笑顔の溢れるスナップが撮られている。午前・午後と交代で訪問する家族もあり、居室で穏やかな時間を過ごせるよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにて過ごされる時間が多い入居者の皆様が、個々で孤立することの無い様職員が声かけ行い、関り、またレクレーションを行うなど、喜びや楽しみが共有できるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近年終末期まで利用される方がある。御本人が他界されても自宅まで職員が出向いて行ったり、ご家族からは思い出として実のなる木を植えて欲しいとの依頼により植樹したりと関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の面談・普段の会話の中から、希望等を聞き、その思いを尊重し、少しでもそれに沿う事ができるように努めている。また、日常生活の変化などの中からご本人の思いを汲み取り援助に繋げられるように心がけている。	把握した入居者の生活歴、職歴、趣味等をアセスメントシートに整備し、日々入居者の意向の把握に努めている。否定的な言動のある入居者や意向の表出が乏しくなった入居者もあり、全職員で把握した気づきを共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の面談や普段の会話の中で生活歴聞き、スタッフ間での情報の共有を行う。またそれまでの習慣や経験等が途切れてしまうことなく過ごせる様、なじみの品の持ち込みもして頂ける旨を入居時にご説明している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の生活状況、心身の状態についての観察を行い、職員間で情報の共有を行う。またそこから、ご本人に合ったスタイルのケアを心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の会議の中で入居者様の状況の変化・問題点や今後の援助について全職員で話し合い計画の作成・変更を行う。また、ご家族へ現状の報告を行ったうえで、ご家族のご希望も考慮しながら計画に繋げている。	入居者や家族の意向を汲んだ介護計画を作成し、定期的なモニタリングを実施し、計画を見直している。介護経験や資格のない職員もあり、詳細な週間計画で日々の支援を実施している。ランチマット等の洗濯を淡々とこなす入居者もあり、個別的な支援をしている。	入居者の興味や笑顔を引き出すケアを位置づけた介護計画の作成で、理念の具現化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の暮らしの様子で普段と違うご本人の言葉や行動等を記録に残し、ケアプランの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、受診、送迎や個人希望の買い物等必要な支援には、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の地域の行事に招待状を頂き、出来るだけ参加するように努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医に月2回の往診をして頂き、利用者の状況を把握していただくと共に、状態の変化に合わせて相談を行い必要な医療が受けられるよう支援している。また、その内容についてもご家族へ連絡を行っている。	今夏、嘔吐等で腎盂腎炎と診断され、入院した入居者もいたが、現在はかかりつけ医の往診でホームで生活できるまでになっている。看護職員が週に一度勤務するため、かかりつけ医との連携も円滑である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が勤務しており、体調の変化や問題点などを伝え、相談を行う。体調不良の入居者は、随時看護師、かかりつけ医へ連絡を密に行い、適切な受診や看護、服薬を出来るよう対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は出来るだけ様子を見に行き、医師・看護師と話し合いの場を設けている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に苑としての考え方、今までの看取りの事例について管理者がご家族に説明を行っている。また、体調が悪化された際には、看護師も含めて今後の方針等ご家族の要望を伺い、その点も考慮し協力を得ながら支援に取り組む方向で看取りの同意を頂いている。	ここ2年間で2名の看取りに関わっている。家族も毎日訪問される中、かかりつけ医と十分な連携もあり、静かに苦しみもなく亡くなられた。管理者は家族の篤い感謝の念に触れ、感動を新たに今後も看取りに関わりたいと話している。看護職員から、終末期症状について学んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に素早い対応ができるよう事故・緊急時の対応マニュアル、連絡図を掲げている。また看護師のアドバイスや指導により急変時、初期対応についての知識と実践を身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、火災通報装置を使用して日中、夜間帯を想定した訓練を行っている。非常用食料、飲料水、備品は準備している。	スプリンクラーを設置した業者から、火災時の操作について学んだり、入居者を庭に避難させる訓練を実施している。救急蘇生法を看護職員から学んでいる。	ホームが住宅地の一角にあるので、地域の一員として、町内会長や地域包括支援センターから地元消防団等の地域自衛団の情報を得て、協力を得られることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りやミーティング時、自尊心を傷つけない対応を行うよう、入居者様への呼びかけ、話し方などについて職員間での気付き、意見交換を行うよう管理者が指導しており、目線を合わせ、人生の先輩方として接するよう心がけている。	入居者の心身の状況に応じた言葉遣いや対応がなされている。保護司をされていた男性入居者には挨拶等の役割をお願いしたりしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方が個人で希望される必要な品物がある際は職員が同行し買い物に出かける。ご自分で好きな品物を選び、購入できるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方は、大きな窓に囲まれた明るく開放的なリビングで1日の大半を過ごされる。が、敷地内に祭られている観音様をお参りしたり、近くの商業施設にご家族と外出されたり、自室にてテレビを見たりと御本人の自由に過ごして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をする方、装飾品を身につけられる方、洋服に拘りのある方など、生活歴などを把握し御本人に合わせて支援している。定期的な散髪、起床時の整容などにも配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を聞きながら手作りを基本に献立を作成、季節の食材を取り入れている。入居者様が配膳や片付けのお手伝いをしてくださり、食卓では会話をしながら毎日和やかな食事時間を過ごしています。	入居者・職員が一同に会して、ゆったりとした食事が継続している。咀嚼や嚥下状態に配慮し、ミキサー食を用意している。内容を説明しながら介助しているが、介助する職員が交代したり、食器の場所を変える等の見守りを行っている。職員ばかりでなく入居者も、相互の状況を理解する機会になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量を観察・記録、一人ひとりの摂取状況を把握し、それに合わせた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ご本人の力、口腔状態にあわせ、援助、声かけ、見守り、確認を行う。歯科よりの指示に従い、個々に必要なケアを行っている。就寝前の口腔ケア後は、義歯専用の洗浄剤につけおきし、衛生が保てるようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排便状況・服薬状況を把握し、一人ひとりの排泄の状態にあわせてこまめに声かけ、トイレ誘導・オムツチェックを行う。	攻撃的な言動のある入居者もあり、日常的な会話からオムツ交換するなど職員のスキルが培われている。管理者は新規採用職員に、入居者の状況に応じた介護技術を指導している。家族から、使用するオムツの量が少ないことを感謝されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食物を取り入れる等飲食物の工夫とラジオ体操・腹部マッサージ等個々に合わせた対応で予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本としての時間帯は確保しているが、入居者様の希望や失禁等の状態によりいつでも入浴していただけるようにしている。	桧材が壁に使用され、四季折々の池を展望できる浴室は、温泉と呼ぶ程入居者に好評である。三方から介助できる大きめ浴槽に、入居者2名で入ることもある。一日おきに自立している入居者と介助が必要な入居者に分けて支援している	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活歴を活かした部屋作り心がけ、安心して休息や入眠ができる様、対応している。天気の良い日には布団を干し、シーツをこまめに洗濯し入居者様が気持ちよく眠って頂けるよう心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬の説明書をファイルに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。薬の追加や変更時は申し送り時や申し送りノートに記入し、確認を行っている。1日の薬には日付を記入し誤薬、服薬忘れのない様に対応している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パズルや読書等一人ひとりの生活歴や好みにあった娯楽が出来るよう対応している。重度の方も寝たきり状態にならないようにデッキに出て日光浴を行ったり、町内を車椅子で散歩したりと、気分転換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望する利用者が少ないが、申し出があった場合には一緒に出かけるように努めている。近くの公園や苑敷地内の花壇への散歩等、出来るだけ、戸外に出かけるよう努め苑の食材の買い物にも一緒に出かける事もある。	交通量も少なく、池に面した近くの公園まで散歩したり、食材購入のドライブをしている。中にはコラーゲン等の購入を希望する入居者もあり、買い物に同行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には御本人に所持して頂き、買い物時にご自分で財布よりお金を出して支払いをされる。また、不可能な方はご家族の希望があれば管理者が管理している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話を希望された場合には速やかに対応している。手紙については、実際書くことの可能な方が現在居られない為行っていないが、以前可能な際は支援を行っていた。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには三方大きな窓があり、開放的な空間となっている。日差しの強弱に合わせカーテンを開閉し、採光の調整を行うと共に、温度管理もこまめに行い居心地良い環境に配慮している。窓からみえるベランダの向こうには池や公園が見える環境の中で季節感を満喫できる。	玄関横の庭には花壇や観音様の祠があり、また居間やベランダから、池を間近に眺められ、自然の移ろいを感じられる造りになっている。廊下やトイレも広く、明るい居間で過ごす入居者も多く、椅子やテーブル、ソファが設置され、加湿器で空調管理をしている。対面式厨房から、食事づくりの音や匂いが漂い、ゆったりとした時間が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・テーブル・マッサージチェアを置き、廊下脇に和室も完備、テレビ観賞・雑誌を見たりパズルをしたり、入居者様同士が談話されたりと好きな場所で自由に過ごして頂けるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ・お位牌・家族の写真等馴染みの物や希望の物を置いて頂いている。またベッドや畳等入居者様の生活習慣・好みに合わせた部屋作りを行い、居室が居心地の良い空間となるようにしている。	居室入口は非常時の搬送順位によって色分けされたステッカーが添付されている。椅子や筆筒が持ち込まれ、壁には孫の結婚式の写真が掲示された居室もある。ベランダが全居室に設けられ、開放的で、家族にも好評である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分な採光・バリアフリー・手すりの設置等設備面と共に行動範囲の障害物を排除し、転倒の防止とお一人でも安全に移動が出来る環境作りを行っている。		